



第 82 号 令和4年9月

編集発行 庄内教育事務所 指導課  
〒997-1301  
東田川郡三川町大字横山字袖東 7 番 1 号  
Tel.0235-68-1982/FAX0235-66-3015

## 授業改善に向けた学校研究の推進を

5月12日(木)に第1回学校研究ワンアップ研修会が庄内総合支庁講堂にて行われました。研究主任としての役割や学校研究の進め方について確認した後、「昨年度の学校研究における成果や課題を受けた、今年度の活性化案や変更点等」を主な視点として、グループごとに活発な情報交換がなされました。どのグループでも共通に話題になっていたことは「目の前の子どもたちの実態をしっかりと捉え、**子どもたちに付きたい力は何かを明確にし、目指すゴールを共有することが大切**」ということでした。授業づくりを考える上で大事にしたいポイントですね。



### <参加者アンケートより>

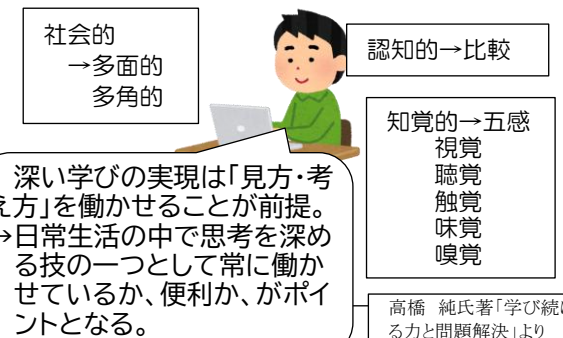
- ◆今年度から研究主任ということでの進めていったらよいかかわらず、自分の勉強不足を感じていました。そんな中、他の学校の先生方と情報交換することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。
- ◆今回の研修では、様々なことを考えるきっかけを得ることができました。研究主任として、学校研究を推進していく上で感じていた、形骸化している学校研究をどのように実りの多いものにしていくのか、先生方にとって有用感のある学校研究にしていくのか、そういった諸課題を改善していく良い機会になったように思います。

また、第2回学校研究ワンアップ研修会はコロナ禍に配慮し、7月12日(火)にZoomオンラインで行われました。今回は、東京学芸大学教育実践課でご活躍の高橋純教授より「ICTの活用による主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」というテーマで、ご講話をいただきました。高橋先生からは、教師自身がICT活用の楽しさや便利さを実感することが重要という視点も教えていただき、参加した先生方から様々な学びの感想が寄せられました。今後の授業改善や学校研究の推進に向けて、さらなる意欲につながる研修会となりました。

### <参加者アンケートより>

- ◆ICTの活用場面をどのように考えるか、具体例を示しながらわかりやすく教えていただきました。主体的・対話的で深い学びや、3つの資質・能力についても、具体的な例を示しながら、イメージを持てるように教えていただきました。本校でもICTの取り組みについて試行錯誤しているところですが、単なる知識の習得のためにとどまらない活用の在り方を探り続けていきたいと思っています。
- ◆ICT活用から主体的・対話的で深い学びにつながる視点について改めて学ぶことができました。特に本校の研究授業の主題にせまる内容だったと思います。実際にICTを活用した授業はまだまだといったところですが、今回の講話を聞き、まずは使ってみるところから始めたいと思います。
- ◆実際にツールを使ったり、学校の実践動画を見せて頂いたりして、ICT活用のイメージがわきやすかったです。教師がICTの効果を実感して使うことが大切だとわかったので、義務感で子どもに使わせる前に、自分で試しながら使っていきたいと思っています。

### シンキング・レンズ (各教科等によらない**基盤となる見方・考え方**)



第3回ワンアップ研修会は  
10月11日(火)です。  
ぜひご参加ください。



## 幼児期から児童期の架け橋期教育の充実・改善を目指して

最上・庄内地区の幼稚園関係者が参加し、令和4年度幼稚園教育課程山形県協議会が8月3日にオンラインにより開催しました。「幼児教育と小学校教育の円滑な接続、幼児教育の質に関する認識の共有と家庭や地域との連携のあり方」について、國學院大學人間開発学部 吉永安里 准教授よりご講演をいただき、その後、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論を踏まえ、認定こども園大宝幼稚園、認定こども園向陽幼稚園より実践発表をいただきました。

実践発表では、小学校への接続を考え育成したい力を職員間で共有や、子ども理解の充実を図るためのドキュメンテーション活用法など、貴重な実践を学ぶ機会になりました。その取り組みを紹介します。

### 認定こども園 大宝幼稚園 (鶴岡市)

◇架け橋期はもとより、その前後の学びのプロセスをの基盤を育てていく

・「今日も楽しかった!!」～明日へつながる保育を考える～と研修テーマを掲げ、0歳児からの育ちを大切に、主体的な学びの基礎となる好奇心、気付き、意欲、探究心等を育む取り組みを園全体で行っている。

◇主体的・対話的で深い学びの土台作り

・子どもと共にドキュメンテーション作りを通して、保育教諭と子ども双方の振り返りと次の見通しにつながっている。

◇日々の保育の質の向上

・子どもの姿を起点に年間テーマやねらいを立て、見通しを持って活動や遊びを計画することで、「次はこうしていきたい。」という子どもの思いや意欲につながっている。

◇地域とのかかわり

・小学校や高校、鶴岡駅との交流を行っている。未就園児の会(にこにこひろば)では、園を開放し、親子で楽しめる場を提供し、子育て支援の充実を図っている。

### 認定こども園 向陽幼稚園 (新庄市)

◇小学校に向けて身につけたい力・願いについて職員間で話し合う

・実践を通して、子どもの思いを汲み取る大切さを確信した。一人一人の興味・関心を大切に開いている。

・どんなことに興味・関心をもち、良さを発揮し、自信につながったかなど、園での育ちを小学校に伝えている。共通理解を図ることがなめらかな接続につながっている。

◇「架け橋プログラム」を読み合い、理解を深める

・「育みたい資質・能力3つの柱」「10の姿」を元に、改めて子どもの姿を見つめ直すことができた。小学校への接続に向けて、年長児ではどのような力をつけていきたいかを教師間で確認することができた。

◇個々の子どもの記録から発達を読み取り、必要な指導計画に改良していく

・ドキュメンテーションを取り入れたことで、子どもを見る視点が変わった。幼児の姿や興味・関心の変化に合わせて保育内容を吟味し、環境構成を見直すなど、教師自身の振り返りができた。

## 計画指導訪問校に学ぶ Vol.1

【鶴岡市立豊浦小学校】 (校長 新野 文俊) 6月8日 訪問

- 学校教育目標 「心豊かでいのち輝く豊浦っ子の育成 ～本気・笑顔・挑戦～」
- (1) 学校教育目標の副題である「本気・笑顔・挑戦」が根強く育っている児童のよさを強みとして、地域と連携し、児童の自尊心の一層の育成に努めている。
  - (2) 目指す学校全体の資質能力を全職員で共有し、さらに発達段階ごとに設定し、組織的に具現化できるよう推し進めている。
  - (3) SKYプラン 2022 による保小中連携や、地域の方による教育活動への積極的な協力により、全児童を温かく見守り、自尊感情を育成している。



【鶴岡市立京田小学校】 (校長 阿部 敬子) 6月22日 訪問

- 学校教育目標 「ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子どもの育成」
- (1) 生活科や総合的な学習の時間で、自分を見つめ(キャリア教育)、郷土を愛し(ふるさと学習)、世界(SDGS)にも目を向ける特色ある活動を行っている
  - (2) 学校として命を守ることを大事にした教育活動を展開し、新潟地震を教訓とした危機管理マニュアル等も学校全体で共有されている。
  - (3) 縦割り活動の充実が見られ、児童もねらいをしっかりと理解して取り組み、自分事としてとらえている。児童の自己有用感を高める活動となっている。



【酒田市立松山小学校】 (校長 佐々木 宏) 7月20日 訪問

- 学校教育目標 「ふるさと松山を愛し 夢に向かってたくましく生きる子どもの育成」  
～心豊かな子 学び合う子 元気な子～
- (1) 旧松山町に残る唯一の学校であり、ここ松山でしかできないことを松山小の使命とし、6年間を貴重な学びの時間として、経営の根幹に位置付けている。
  - (2) 相手を思いやり協働して取り組む子の育成は、学びと体作りの基盤ととらえ、今年度から心豊かな子を副題の第一とし、教育活動を展開している。
  - (3) カリマネ元年として、授業改善とともにICT活用の日常化を目指している。

